

医療タイムス

週刊医療界レポート

2016.6/13 No.2259

特集

生活者視点で構築する地域包括ケア プロの視点ではなく、住まいを拠点に社会を眺める



タイムスインタビュー

駅ナカクリニックのブランドは確立
予防医療の観点でも有意義な業態に

医療法人社団鉄医会ナビタスクリニック新宿
院長

濱木珠恵氏

タイムスレポート

NPO法人日本トイレ研究所

「小学生の排便と生活習慣に関する調査」を実施
小学生の5人に1人が便秘状態にあることが判明!

Top News

参院選公約、社会保障の道筋欠く 自民党

介護・子育て優先、低年金対策先送り 社会保障・消費税

膵臓がんが多いRNA測定、採血で早期診断期待

東大

膵臓がんによく存在し、血液中にわずかに流出している特定のリボ核酸(RNA)を測定する方法を開発したと、東京大学附属病院の大塚基之特任講師らが2日付の米医学誌JCIインサイトに発表した。将来は膵臓がんを採血で早期に診断できるようになると期待される。

患者と健康な人の血清で、このRNAの量を測定

したところ、患者の方が明らかに多かった。膵臓がんの前段階の病変がある患者もRNAが多く、膵臓がんを手術で切除した患者では減少が確認された。

このRNAが膵臓がんが多いことは2011年に米マサチューセッツ総合病院の研究チームが報告していたが、既存の方法では増幅が難しく、血液中の量を測定できなかった。